

## ●中学生の部

環境大臣賞 三浦 かな (みうら かな)

「熊さんが教えてくれたこと」

「こいつを殺す原因を作ったのをわかってほしい。」

知床財団の職員は、泣いて訴えていた。人間に近づき過ぎた熊が駆除されてしまったニュースだった。

私は、そのニュースを見て衝撃を受けた。熊に近づいて写真を撮ったりエサをやっていたのが日本人だったからだ。コロナ前は、外国人観光客が、熊の怖さを知らずに近づいていると思っていた。しかし、今は外国人観光客はいない。映像には、一目熊を見ようと車を止めてカメラを手に近づいている人々が映し出されていた。そして、

「近づいちゃだめ！車に戻ってください！」と日本語で注意されていた。

私はすぐに知床財団にメールを書いた。今までは外国人の誰かのせいにしていたが、実は私たち日本人だったことに気づいたことを。そして、まだ子どもの私でも何かできることはないかを。

すぐに返事が来て、ぜひ知床に来て自然について学びに来てくださいと書いてあった。早速家族にお願いして、夏休みに連れて行ってもらった。

知床自然センターは、生態調査や環境保全のための活動をしている。知床の美しい自然や熊の問題についてのビデオも上映されており、野生動物と人間の正しい距離感を教えてくれるところだ。動植物の正しい知識を持って自然を楽しんでもらいたいと願っている。「自分たちの身近なところから行動を起こして、そしてメッセージを訴え続けてくれることが、いずれは日本各地で起きている、野生動物と人のあつれきの問題の解決の糸口になる。」これが、私が知床財団から受け取ったメッセージである。

今年、私が住む町でも何度も熊が目撃され熊注意報が珍しくなかった。人がいても逃げないという。私は、昨年のコロナ休校中に始めたゴミ拾いを今でも月二回のペースで続けている。また、ポスター二種類を作りポイ捨て防止とエサやり禁止を訴えてきた。この成果なのか、この一年半でゴミは少しづつ減ってきている。しかし、ゴミを分析すると、この町にはないコンビニの食品関連ゴミも多いし、食品関連ゴミをくわえたキツネもまだ見かける。私の町以外にも伝えていけないといけない。

あなたが軽いノリで捨てたゴミのせいで野生動物が人間の食べ物の味を覚え、人間に近づく。そして、人間が熊におそわれ、熊が殺される。これが現実だという事を伝えていきたい。私達がやることは、熊の写真を撮ったり、エサをあげることではない。野生動物と人間の越えてはいけない境界線を守ることである。

知床に行ってから、父から提案があった。私の定期試験の一年間の合計点と同じ金額を動物愛護団体に寄付するということだ。何て面白くないアイデアだろうと思ったが、なかなか良いかもしれない。私が知識を身につければ身につけるほど動物の保護にも役立っていく。おかげで、中学生になって初めて満点が取れた。こうやって、少しずつでも自分が出来ることから始める。発信する。これが、私が受け取ったメッセージだから。